

メキシコ – 政策金利据え置き、米FOMCの動向を注視 –

＜政策金利を3.0%に据え置き＞

メキシコ中央銀行は10月29日（現地時間）、政策金利を過去最低の3.0%に据え置くことを決定しました。

メキシコ経済については前回に引き続き「緩やかに成長している」としてはいますが、輸出については前回の「一部で回復の兆しが見え始めていた」から「外需の落ち込みにより勢いが失われた」へとトーンダウンしています。一方、個人消費については「送金と銀行貸出の増加や低インフレ率、良好な雇用状況を背景に堅調に推移している」としてはいます。

インフレ率については前回同様「足元のインフレ率は過去最低水準で下落傾向にあるものの、将来的には、通貨安による輸入物価の上昇などにより3%のレベルに戻る」と予想しています。

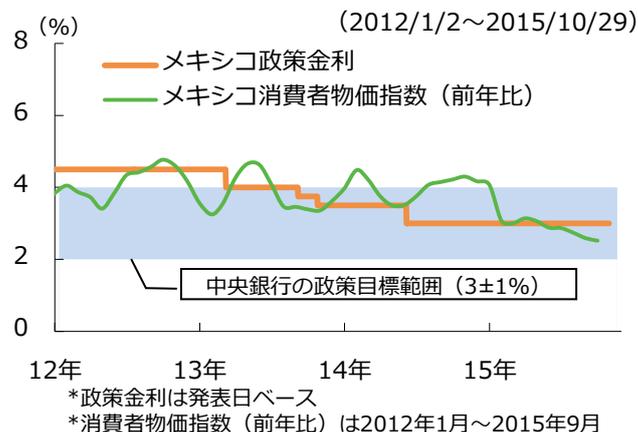
引き続き、メキシコの通貨と物価見通しに大きな影響を与える米FOMCの動向を注視し、必要があれば物価安定のための行動を起こす準備があるとしています。

＜今後の見通し＞

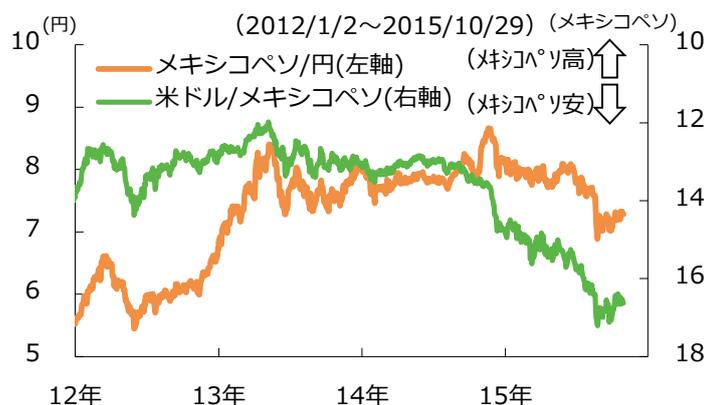
原油安の影響を受けてエネルギー関連産業の低迷が予想されるものの、自動車産業など米国との結びつきが強い産業が牽引役となり、今後もメキシコ経済は底堅く推移すると予想されます。

10月27日～28日の米FOMCでは利上げが見送られたものの、声明文の内容は12月会合時の利上げを示唆するものでした。そのため、メキシコペソは他の新興国・資源国通貨と同様に、米国の利上げを巡り、不安定な展開になりやすいと思われます。一方で、メキシコ中央銀行が米利上げにすぐさま追随する可能性が高く、通貨防衛の姿勢を鮮明にしていること、また、メキシコの構造改革への期待感や信用力が高いことなどを背景に、中長期的にメキシコペソは新興国・資源国通貨の中で優位性を保つと予想します。

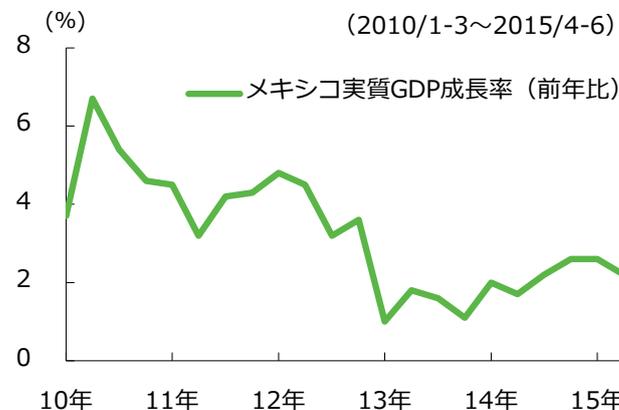
＜インフレ指標と政策金利の推移＞



＜メキシコペソ為替の推移＞



＜メキシコのGDP成長率の推移＞



出所：Bloomberg

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会